



～教養講座を終えて～

6月17日(水)本校第1視聴覚室で教養講座を開催しました。

入江教頭先生を講師としてお招きし、「歴史への誘い」と題してお話いただきました。歴代の大河ドラマを解説しながら、登場人物の因縁や、富山との関わりをおもしろく語っていただき、時折笑いの起こる楽しい学びの時間となりました。



その中でおすすめされた本を一部紹介します。



『殴り合う貴族たち:平安朝裏源氏物語』

繁田信一 著/柏書房

宮中で取っ組み合い、従者を殺して生首を持ち去り、受領たちを袋叩きにし、平安京を破壊する。そして殴られる天皇まで!……

公家の日記に記された素顔の平安貴族の不品行な一面。



『戦国越中を行く』

北日本新聞社 編/北日本新聞社

天正12年、末森の合戦がかつての同朋の命運を分けた。越中戦国史の終章を飾り、華々しく散った佐々成政。

ライバルを討つ苦渋の選択をした前田利家は、その後加賀百万石を築く。



図書館では「教養講座を終えて」コーナーを設置して、紹介された本を展示しています。

夏だ！本を読もう！

もうすぐ夏休み！

でもいろいろやることも考えることもいっぱいあって、
悩み多いですね…

今月のテーマは、「哲学」です。

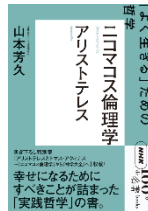
図書委員がおすすめの本を紹介します。



『NHK「100分de名著」ブックス アリストテレス ニコマコス倫理学 「よく生きる」ための哲学』

山本芳久 著／NHK 出版

この本はアリストテレスの入門書です。彼の唱えた思想は現代の創作のテーマになったり、中世ヨーロッパの人々の持っている世界観のもととなっていたりします。ファンタジー物や中世ヨーロッパに興味を持っている人は読んでみてはいかがでしょうか。



へいげい 『睥睨するヘーゲル』

池田晶子 著／講談社

小気味いい考え方に会える、「哲学って小難しくて何言ってるかわからない！」という人にこそ読んでほしい一冊。そのまま最初から読むもよし、パラパラとめくってみて、気になったところから読むもよし。ダジャレのようなタイトルだからといって侮るなかれ！



この夏、何読む？ 本を紹介する本

本を読みたいけど、何をを読んだらいいのかな～

迷ったら、まず「本を紹介する本」をめくってみるのもおすすめです。

きっと「これ読んでみたい!」と思える1冊に出会えるはず!



本を紹介する本もいろいろあります。

図書館では、7・8月企画として、「本を紹介する本」を展示しています。

本の雑誌として人気の「ダ・ヴィンチ」もありますよ!

『まなの本棚』

芦田愛菜 著／小学館

小学生で夢中になった児童書、次々と読破したシリーズもの…。年間100冊以上も読み、本について語りだしたら止まらない芦田愛菜が“秘密の約100冊”を紹介する。



『あの人が好きって言うから…有名人の 愛読書50冊読んでみた』

ブルボン小林 著／中央公論新社

俳優やアーティスト、政治家など、各界の有名人50人の「愛読書」50冊をお題に、なぜあの有名人がその本を好きなのかを、ボンコバ流に考察。「売れてる人が好きな本」のブックガイド。

